

D 99. 最近の市場における家具用革の性状

昭和女大家政 ○角田由美子 都皮技センター 今井哲夫
昭和女大家政 岡村浩

〈目的〉生活の多様化、所得水準の向上により、日本においても革張りの家具が最近数多く使用されるようになり、家具用革を専門に製造する工場も現われてきた。一般の家具用革は大きな面積を必要とするため、良質な成牛皮より製造される。家具は他の皮革製品より使用期間が長いため耐久性が要求され、皮革に対する一般の試験以外に染色摩擦堅ろう度、耐寒性および耐久性などの試験も行われている。しかし、家具用革としての機能特性を比較する標準的な項目も現在のところ確定されていない。したがって、諸外国で入手した一般的な家具用革の性質を比較した結果をとりまとめた。

〈方法〉昭和62年7月より昭和63年12月の期間にヨーロッパ諸国、アメリカで入手した家具用革、計34点を試料革とした。試料革のバット部よりJIS K-6550に準じ各測定項目ごとに3点の試験片を採取した。なお、測定値が方向により異なる引張強さ、伸び、引裂強さ、耐屈曲性については、いずれも背線に対して垂直方向とした。試験項目としては化学分析、機械的性質、物理的性質を革一般に通常行われているJISおよび常法に準じ実施した。また特殊な試験として耐久性および耐寒性テストをも行った。

〈結果〉家具用革は既報の成牛皮より製造した一般の甲革と同程度の化学分析値、機械的性質、物理的性質および感触を示していた（甲革のナツパ革に準ずる）。また染色摩擦堅ろう度は乾式、湿式および人工汗液による変退色は小さかった。家具用革につき同様な調査を昭和54年7月より昭和55年2月の期間にヨーロッパ、アメリカおよび日本国内で入手した家具用革26点の試料について行った結果と比較すると、塗装が非常に薄く柔軟であった。